

ライフシフトから考える ワークライフバランス

京都産業大学 経営学部

井村ゼミナール

岸本麻利

芝田翔馬

岸野圭祐

目次

1)背景

2)研究目的

3)調査方法

4)単語頻度分析

4-1)職業別単語頻度分析

4-2)班別単語頻度分析

4-3) 単語頻度分析 結果

5)言葉ネットワーク

5-1) 言葉ネットワーク 結果

6)特徴語頻度分析(社会人)

6-1)特徴語頻度分析(学生)

6-2)特徴語頻度分析 結果

7)まとめ

8)考察

1)背景

・ライフシフト

80歳から100歳まで生きる人生

60歳の定年後に80歳と100歳まででは生活が大きく変わる

今までの「教育（～22歳）」、「仕事（～65歳）」、「老後（～80歳）」の3ステージ制という人生設計から新しい人生設計の“マルチステージ”制への転換する

1)背景

マルチステージ制では「教育」が終わると80歳まで

- ① エクスプローラー(自分探し:新しい経験や価値観を広げる)
- ② インディペンデント・プロデューサー(個人事業主として自由に働く)
- ③ ポートフォリオ・ワーカー(企業で働きながら次の能力を磨く)

この3種類と「仕事」を加え自由に行き来するマルチなステージ構成になる

さらにマルチステージには4つの“無形資産”:生産性資産(仕事の能力)、活力資産(健康)、変身資産(人生を広げる人脈)、パートナー(結婚相手)が必要

1)背景

・働き方改革

- ・生産性の向上
- ・環境や人材の多様化
- ・働く時間、場所の柔軟化

を目的として政府によって推進されてる改革

働き方改革の実施によって

生き方、働き方に変化が表れた

2)研究目的

現時点で日本人の生き方、働き方に大きな変化を与える出来事が多い

→これによって現在社会で活躍する社会人と将来に希望を持つ学生ではワークライフバランスの考え方について違いがあるのではないか



目的① 社会人と学生のワークライフバランスで何を重要視しているのかについて調査をする

目的② ライフシフトについて社会人、学生がどれだけ考えているのかを考察をする

3)調査方法

- * 使用データ：社会人学生を交えたディスカッション
「ライフシフトを踏まえた上でワークライフ
バランスを考える」の音源をテキスト化したもの
- * 検証日：2019年 8月8日
- * ディスカッション時間：1時間
- * 人数：社会人9名＋学生22名 計31名

3)調査方法

- * グループ編成：社会人(ミドル階級)2人～3人
+ 学生6人(京産大3名 + 他大学3名)
計4班
- * 状況：部屋の大きさの限界があったため、2部屋を
使い1部屋2班に分かれてのディスカッション

4) 単語頻度分析

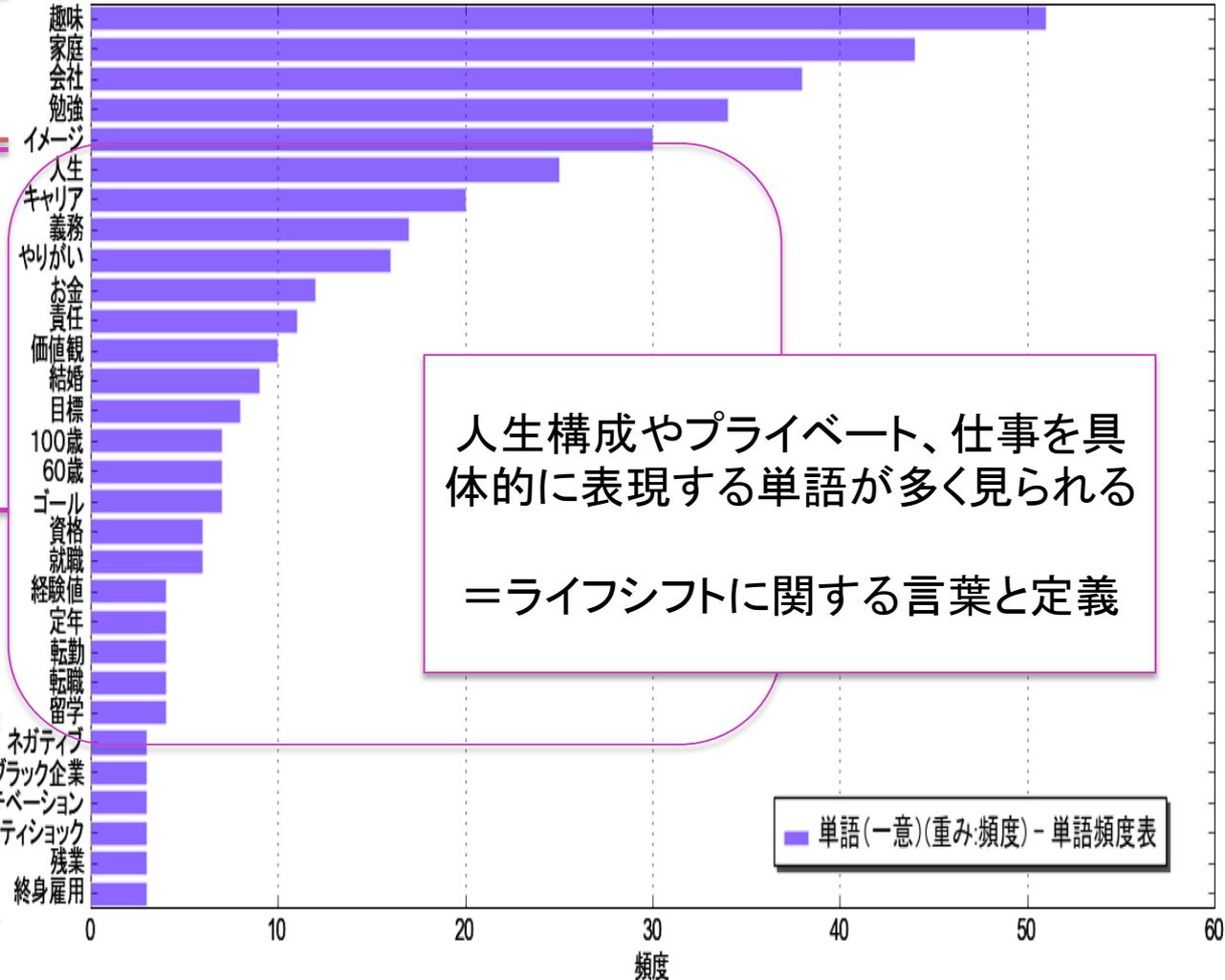
単語頻度分析

仕事とプライベート
プライベートは趣味、家庭、勉強といういくつか種類に分けることができる

人生構成
結婚や60歳などの人生のステージ、仕事に対する価値観が多くみられる

仕事、キャリア構成
- 退職後について
- 資格、転職、転勤など働くステージに関する単語が多く見られる

職場環境についての単語が注目されている

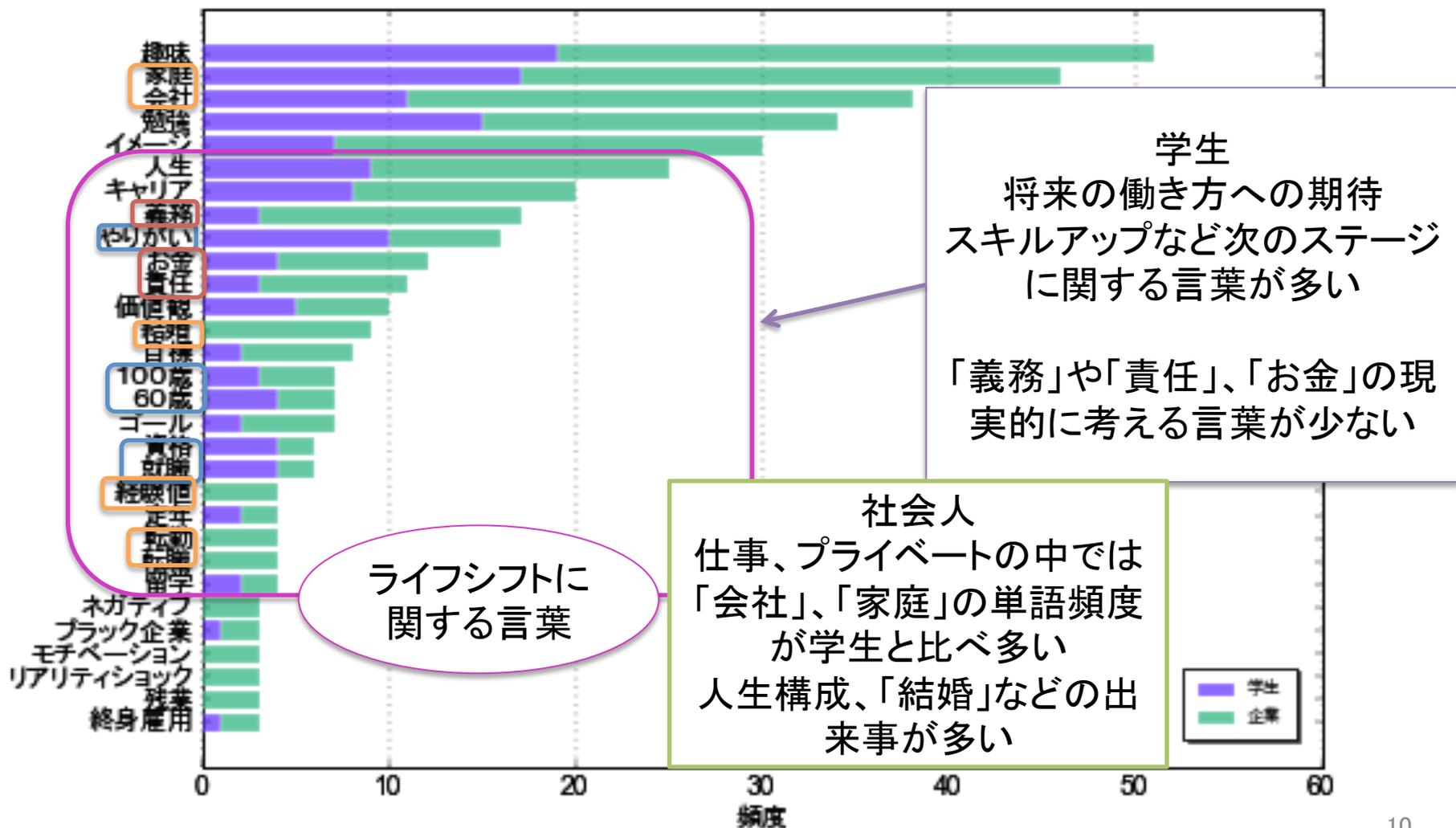


人生構成やプライベート、仕事を具体的に表現する単語が多く見られる
=ライフシフトに関する言葉と定義

■ 単語(一意)(重み:頻度) - 単語頻度表

4-1)職業別単語頻度分析

職業別単語頻度分析



4-2) 単語頻度分析 結果

・プライベートと仕事、人生構成、キャリア構成、働く環境の順で注目されている

・プライベートは種類(趣味、家庭、勉強)に分けられる

→自己投資(勉強)が極端に低いことからプライベートにも優先順位がある

・人生構成は漠然とした言葉が出てきたが、仕事のキャリアの構成については具体的な言葉が出てきた

→人生構成より仕事のキャリア構成は慎重に考えている

・社会人、学生共にライフシフトのマルチステージに関する言葉は少なかった

5-1)言葉ネットワーク 結果

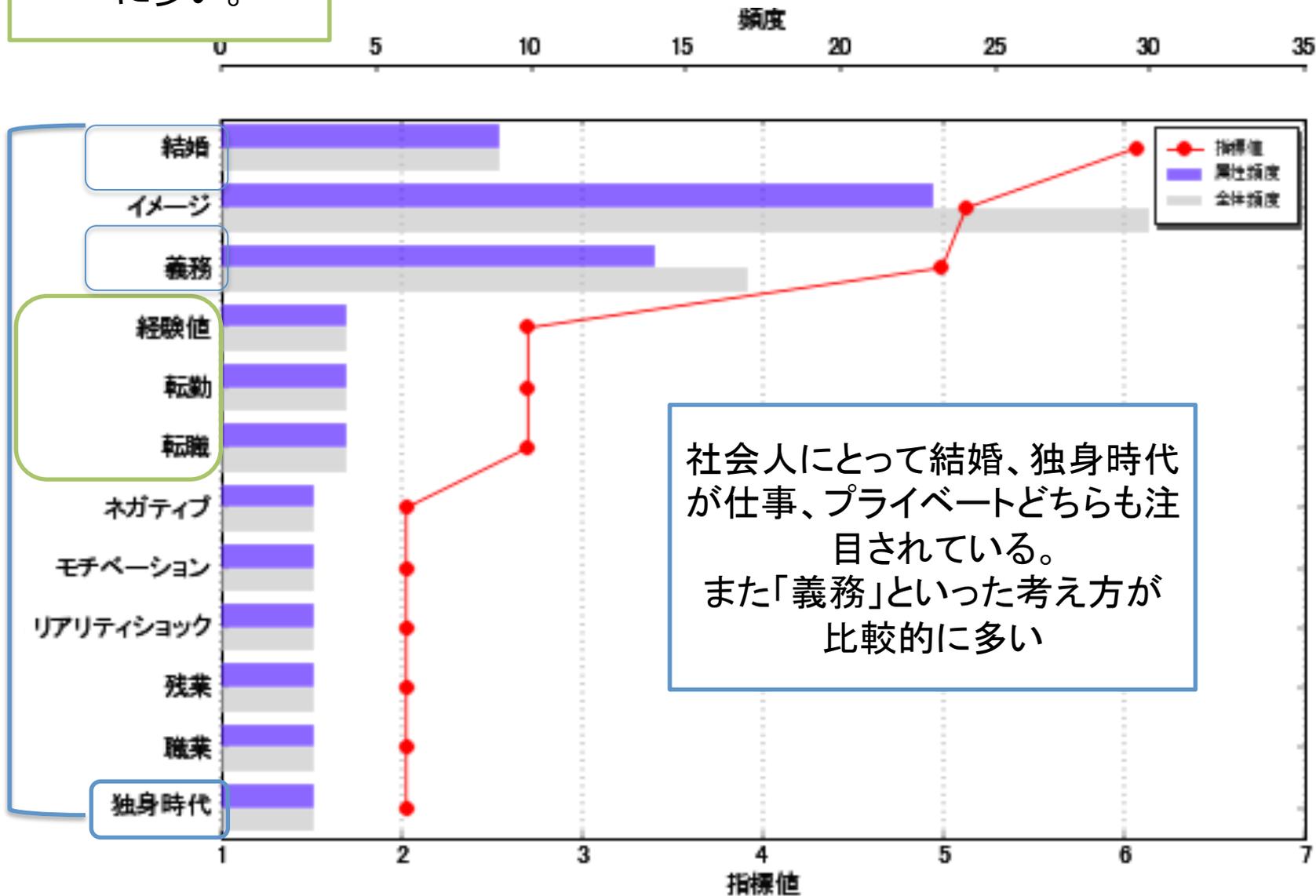
「会社」には現時点の人生構成や、働き方に関する言葉との関係性が多く見られる

「会社」という言葉からは、**将来のためのスキル(自己投資として)**に関する言葉が少なかった

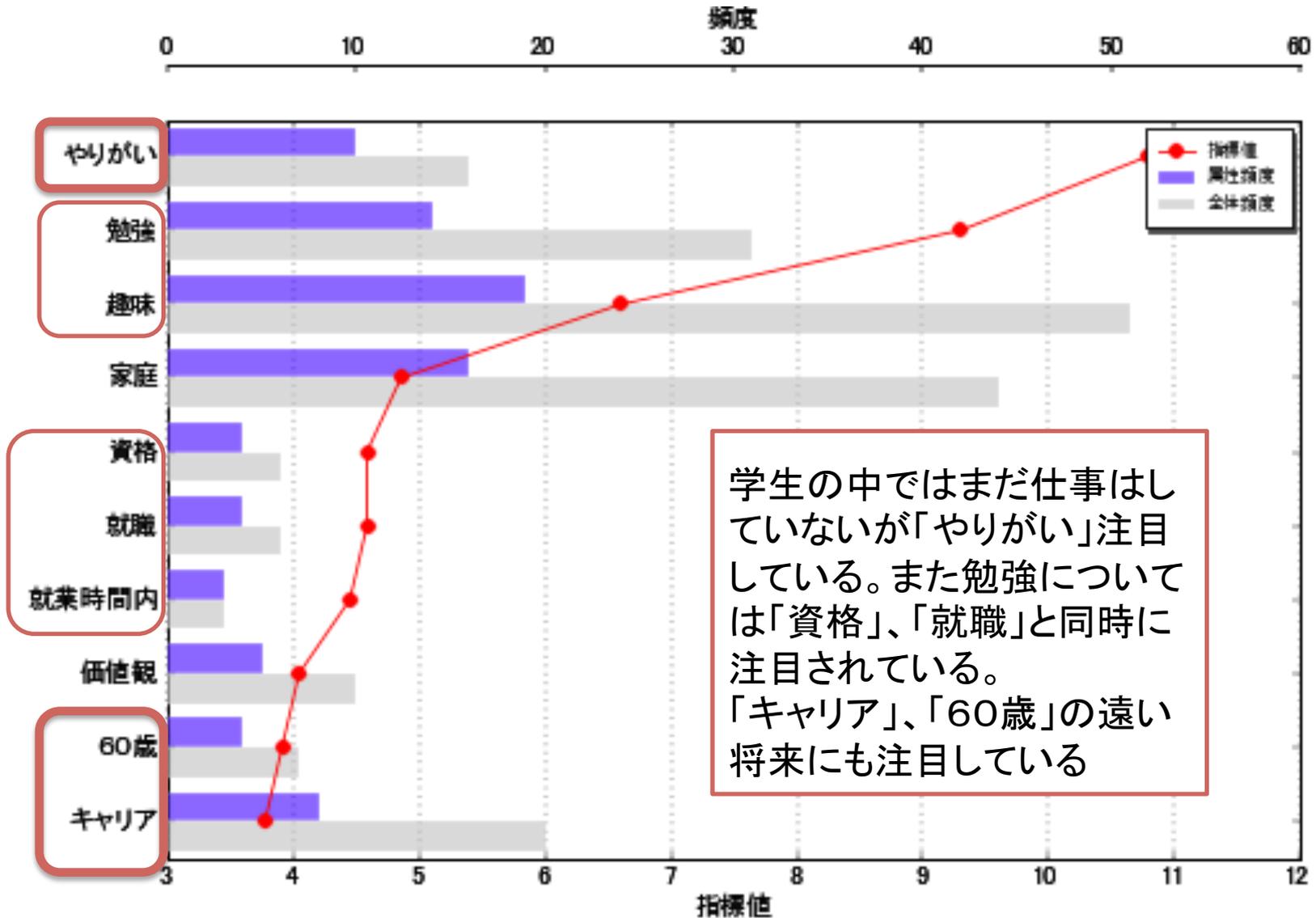
マルチステージに必要とされる「人脈」、「結婚」などの**“無形資産”**に関する言葉が趣味、家庭から見つかった

職場環境に関する意見が圧倒的に多い。

6)特徴語分析 (社会人)



6-1)特徴語分析(学生)



6-2)特徴語頻度分析 結果

- ・ 学生

やりがいなど**次に向けての言葉**が多い。

勉強や趣味など**自分のこと**におもきを置いていることが多い

- ・ 社会人

結婚などは学生が経験していなことであり企業の方がより発言している。経験していることなどはより学生よりも発言している傾向がある。

「義務」などの**責任感**の言葉も現れている。

6-2)特徴語頻度分析 結果

- ・学生と社会人の違い
全体の発言数にも差が大きくある
- ・学生は資格や、就職という発言から未来に向けての発言を多くしている
- ・社会人は学生と比べて転勤や転職など、より具体的な内容の言葉が見られた

7)まとめ

単語頻度分析から	言葉ネットワークから	特徴語頻度分析から
<p>全体として仕事とプライベート、人生構成、キャリア構成、職場環境の順ごとに注目がある</p> <p>マルチステージに関する言葉は少なく、ライフシフトに関する言葉は少ない</p>	<p>全体的に「会社」から人生構成に関する言葉の関係性があつた</p> <p>趣味、家庭から無形資産についての獲得について意識は存在する。</p>	<p>学生は教育が終わり次のステージと将来に注目している。</p> <p>社会人は立場、考え方から現在の仕事のステージについて注目している</p>

7)まとめ-ワークライフバランスについて

社会人、学生どちらとも仕事よりプライベートに注目している

- ・社会人は「**家庭**」に関することを重要視
現在のプライベートに焦点を当てる傾向がある
- ・学生は**将来**の為にプライベートを「**勉強**」に関係することに使う傾向がある

・プライベートの使い方

学生

次のステージの為に使う

社会人

家庭の為に使う

7)まとめーライフシフトについて

仕事以外でマルチステージに関する単語は見つからなかった

→働く環境、具体的な仕事の経験など、**過去や現在**の言葉が多く見られた



3ステージ制で捉えると“**仕事**”が人生における**一番の目標**になっていると考えることができる

プライベートの部分からは“無形資産”(人脈、結婚)の獲得に関する言葉が見つかることができた

8) 考察

教育のステージが終わりに近づき、仕事のステージへの準備・期待に意識が集中している

→ 日本人にとって3ステージ制の考えが強い

マルチステージという考え方自体がまだ定着はしていない

ライフシフトに関して議論することが早すぎたのかもしれない



高齢化が進む中、自身の将来についてマルチステージという考え方を取り入れ行動していくべき

8) 考察

言葉ネットワークの結果ではマルチステージに必要な“無形資産”の獲得に関する言葉が上がっている



マルチステージの考え方が定着していなくても、“無形資産”の獲得は無意識にできている
→3ステージ制の生き方でも“無形資産”の獲得は重要だと理解している

ライフシフトという生き方を深く知り、人生にマルチステージを活用していくべき

補論：ワークショップデザインについて

班別単語頻度分析にて、1
班からライフシフトに関する
単語が他より多い

3班・4班はライフシフトよ
りワークライフバランス
についての話題が中心
になってしまった。

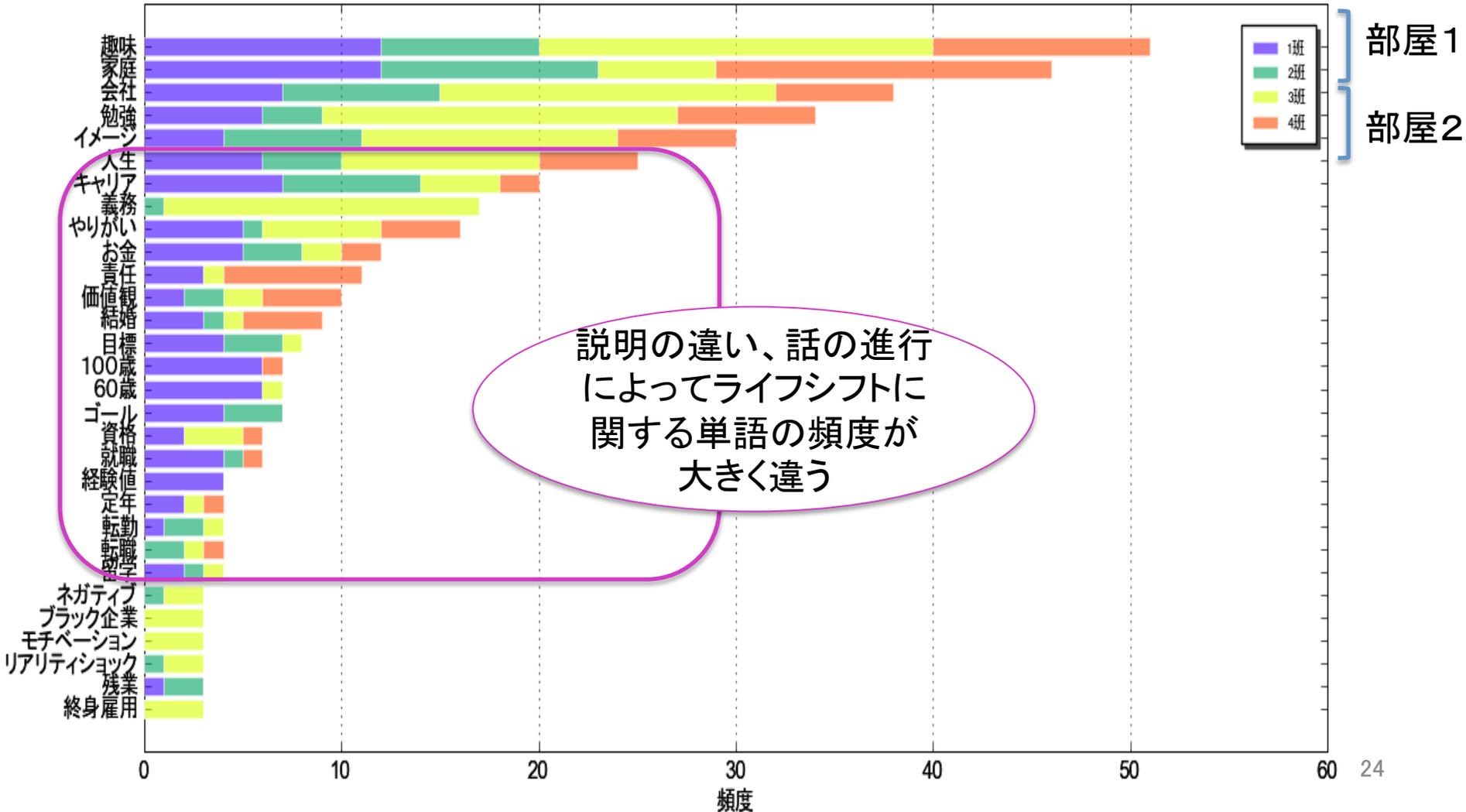
ワークショップ参加者の発言、話の内容に班ごとのばらつきが生まれている

なぜか？

テキスト分析は、ワークショップデザインの振り返りにも利用できた。

補論)班別単語頻度分析

単語頻度分析 班別



補論)班別単語頻度分析

班ごとで多く見られた単語比較

1班 キャリア、目標、100歳、60歳、経験値、就職

2班 キャリア、ゴール、転職

＝最終的な目標、ゴールを見据え、

人生の節目に注目している

3班 義務、人生、資格

4班 責任、価値観、結婚

＝人生観、価値観、人生での出来事に注目している

原因：部屋ごとの最初のワークショップの目的の説明において、説明者の力点や温度が若干異なってしまった可能性。

1班2班の部屋：ライフシフトに力点

3班4班の部屋：ワークライフバランスにより力点

参考文献

リンダグラットン、アンドリュースコット(著) 池村千秋(訳)
「LIFE SHIFT (ライフ・シフト)」 東洋経済新報社

藤澤 理恵 「働き方改革とは？」 リクルートマネジメントソ
リューションズ 2019年 2月18日

<https://recruit-ms.co.jp/issue/feature/0000000735/>